

優秀賞

【外国語】

誰もができる 英語授業内多読 読める! 楽しい! 世界に!

滋賀県湖南市立甲西北中学校

やま ぐち とも ひさ

山口 朋久



はじめに

「1か月に本を1冊も読まない人は6割超」文化庁が9月に発表した2023年度の「国語に関する世論調査」での結果である。またベネッセ2022年度の調査で「中学生の1日の読書時間の平均は16.3分(学校の朝読書10分を含んでいる。)」母語での読書時間がこの結果なら、1日に英語の本を読む生徒は、ほぼゼロであることは想像できる。

日本で英語を外国語として学習する場合は、日常生活での英語のインプット量は非常に少なく、アウトプットをするのに十分な量とは言えない。言語としての英語習得を目指して運用能力向上を図るには、まずインプットの量を大幅に増やすことが最重要課題でもある。それには多読は有効な手段の1つといえよう(高瀬, 2010)。英語の教科書で「読むこと」の『方法』を学び、多読英語で「読むこと」の『楽しさ』を身につけてほしいという願いと、公立中学校でも授業内多読を広めたいという思いが研究の始まりである。

1 | 多読に対する先行研究

1 多読とは

読んで字のごとく、たくさんの英文をできるだけ早く読むことである。生徒が自分のレベルにあった本を選び、辞書は引かずに、細かいこと

を気にせず読み進めることである。

1.1 多読のはじまり

日本にいながら驚くほどの英語力をつけた一人に夏目漱石がいる。『現代読書法』(1906)の中で、「英語を修むる青年は或る程度まで修めたら辞書を引かないで無茶苦茶に英書を沢山と読むがよい。少し解らない節があっても其処は飛ばして読んで往ってもドンドンと読書して往くと終には解るようになる(中略)要するに英語を学ぶものは日本人がちゃうど国語を学ぶやうな状態に自然的慣習によつてやるがよい」とあり、多読の効果を認めている。

1.2 多読の普及

英語を第二言語として学習する国では1980年頃から多読の普及が広がり、英語の力が大きく飛躍した。日本でも1990年前後から各地で多読が広がり、当時高校教員であった田澤美加氏は自分で100万語多読を実践して多読の魅力と必要性を実感し、高校生の選択授業で多読の実践を行った(田澤, 2005)。それ以降、多読は全国各地へと広まっていった。

2 | 多読の必要性

英語を学習する生徒が手にするのが教科書であり、その内容が「わかりたい」と思うのは誰も

が願うものである。その願いをかなえてあげたいと思うのが教師の願いでもある。

2.1 生徒の実態

初見の英語の教科書を手にした生徒は、「読むこと」について次の3種類のパターンに分けられる。①教科書を見て、内容がほぼわかる ②教科書の字面は読めるが、内容はわからない ③教科書の字面も読めないし、内容もわからない

公立中学校の現場として②と③の生徒がクラスの大半であるときも往々にある。つまり教科書は初見の文だと、内容を理解できない生徒が多いのが現実である。

2.2 学習指導要領での「読むこと」

中学校学習指導要領「読むこと」の目標には次の3つがある。

- ア 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。
- イ 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。
- ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

図1 学習指導要領「読むこと」の目標

2.3 教科書と入試の語数

図2は最近3か年の公立高校入試の語数である。教科書東京書籍3年生の本文で使用されている総語数は3841語。入試ではリスニングテスト10分を除く40分でここ最近では1300語前後、つまり1年間に教科書本文で出てくる語数の約3分の1で書かれた英文を読み、問題を解かなければならない実態は、頭に入れておかなければならない。

		2021年	2022年	2023年
1	Listening	85	79	88
2	長文	524	536	546
3	長文	593	622	630
4	作文	31	28	36
	合計	1233	1265	1300

図2 滋賀県公立入試問題の語数

2.4 学習指導要領と入試

学習指導要領「読むこと」と入試問題を合わせて考えると、いかに短い時間で英文を素早く読み、概要を捉えなければならないことがわかる。

さらに学習指導要領「内容・言語活動」での「読むこと」では黙読と音読の2つの読み方の指導について示している。また読後の言語活動に向けての指導に当たり、「学習者のレベルに合ったまとまりのある文章を最初から最後まで通して読む機会をできるだけたくさん設定することが必要である。この際も、逐語的な読みから脱却し、意味のまとまりごとに英文を捉えさせることが必要である」と示されており、多読という言葉は使われていないが、多読の必要性が示唆されていると考える。

3 授業内多読の導入に向けて

3.1 多読に向けた「読むこと」の指導

上記の記述から多読を行う際には「読むこと」のやり方がしっかり身につけていなければならない。「読むこと」の指導として学習指導要領を参考にし、次のような指導を考えた。

3.2 「読むこと」の指導

「読むこと」ができるということは、英語で書かれた文字のかたまりを左から右へと心の中で音声化しながら、書かれた内容を理解することと考える。そのためには、次の5つの指導が必要だと考える。

3.2.1 基本語彙

教科書に出てくる基本語彙はリスト化して何度も繰り返し英語⇔日本語へと変換できるように練習する。

3.2.2 かたまり語彙(チャンク)

学習指導要領の中にある「まとまりごとに英文を捉える」ためには「かたまり語彙(チャンク)」をたくさん身につける必要がある。

例) am still eating, at school, after lunch, What will happen……教科書を使い、かたまり語彙として認識させる。

3.2.3 精読

教科書本文を用いて、語彙やかたまり、そして文法などに気をつけて返り読みをせずに英文を左から右へとかたまりで英語から日本語に自動化する練習を行う。

3.2.4 通訳練習

教科書本文をかたまりや短い1文で区切り、ペアで英語を日本語に言う。サイトトランスレーション活動とも言われている。

3.2.5 音読

教科書の文を指で押さえながら音読して、文字と音声の一致をさせる。文字を音声化することに慣れてくれば、必ずしも指で文字をなぞることは必要ではない。

3.3 2種類の授業内英語多読教材

生徒へ提供する多読教材として次の2種類が考えられる。

3.3.1 投げ込み教材

生徒に「読んでほしい」「読ませたい」全員同じ内容の教材をプリントで与え、同じ時間内に読み切るようにする。

3.3.2 多読図書

生徒自らが自分のレベルにあった多読本を選び、自分の読むペースで読み進める。

4 多読活動の研究

4.1 研究目的

本研究では多読図書を用いて次の3点を明らかにしたい。

- ①『多読により、英語で「読むこと」への楽しさを感じるようになるのか。』
- ②『多読により、英語運用力の向上、特に速読への効果があるのか。』
- ③『多読により、生徒自らが英語学習へ向かおうとする意識は高まるのか。』

4.2 多読研究

4.2.1 研究対象者

甲西北中学校3年生在籍146名
(1クラス抽出28名)

4.2.2 実施時期

3年生 2021年10月～2022年3月
(1年生 2022年11月～2023年3月)

4.2.3 多読図書の選定

選定したのは、絵本オックスフォードリーディングツリー(ORT)である。イギリスの国語の教科書の1つでもあり、1冊数十語から数千語までの1から9のステージがある。ORT選定の理由として、

- 1 生活や文化に密着した内容で、同じ登場人物7人が登場する。
- 2 同じ語彙、文法が繰り返し登場し、文の長さも徐々にレベルアップしている。
- 3 挿絵から内容や未知語も推測しやすく、特別支援の観点からもよい。
- 4 本が薄く、1冊で話が完結し、ステージごとに十分な本の冊数がある。



図3 ORTページ1~9全226冊
総語数415,500語

4.2.4 多読時間と読む語数

授業内での多読時間は、授業開始10分間とする。読む語数は一人平均121語~340語。教科書1ページ1時間の授業だと読む量は平均100語。自分の力で教科書1ページ分以上を10分間で難なく読み進めていく。

4.2.5 授業内多読

生徒は始業のチャイムまでに自分で本を選び、読み始める。多読中に教師は生徒の様子を観察し、困っている生徒や本を選ぶのに迷う生徒に声をかける。生徒とのやり取りの中で、いろいろな気づきも多い。



図4 授業内多読の様子(1年生)

4.2.6 多読記録用紙

本名または著者名 (読書量は引かない。空白か不明なところはばす)				読むべき理由				1. Reading Reading 1. Listening 2. Reading	
No.	月/日	タイトル	シリーズ/出版社	YL	語数	レベル	評価	感想・メモ	
221	1/17	The Shipkey	1冊	4	28904	初級	◎		
222	1/20	Paris Adventure	2冊	4	49056	初級	◎	パリはフランスの首都。エッフェル塔はパリにある。パリはフランスの首都。エッフェル塔はパリにある。	
223	1/20	Home work!	1冊	4	29374	初級	◎	宿題は学校でやる。宿題は学校でやる。	
224	1/22	Lympic Adventure	1冊	5	30267	初級	◎	オリンピックは毎年開かれる。オリンピックは毎年開かれる。	
225	1/22	Ship in Trouble	1冊	5	31403	初級	◎	船が沈むのは怖い。船が沈むのは怖い。	
226	1/24	The Stolen Crown!	1冊	5	31958	初級	◎	王冠が盗まれた。王冠が盗まれた。	
227	1/24	= 2	1冊	5	32427	初級	◎		
228	2/3	The Christmas Disco	1冊	5	32971	初級	◎	クリスマスディスコは楽しい。クリスマスディスコは楽しい。	
229	2/4	A Present for Jao	1冊	5	33433	初級	◎	ジャオにプレゼントをあげる。ジャオにプレゼントをあげる。	
230	2/5	Snow Games	1冊	5	34019	初級	◎	雪遊びは楽しい。雪遊びは楽しい。	

図5 多読記録用紙

生徒は1冊読めば多読記録用紙に、本を返す前に以下のことを記録する。

- 1 タイトルを記入する。
- 2 読んだ本の語数を記録し、さらに累計の計算をする。
- 3 評価はおもしろさを5段階で評価する。
- 4 感想・メモ欄に本からの学びや気づきを書く。
- 5 記録用紙は週に1度回収し、コメントを入れて生徒に返却する。

4.2.7 プレテストとポストテスト

多読開始前後に多読の効果を調べるため、テスト内容と語数がほぼ同じものとしたテストを実施した。文を読み、読んだ時間の記録と簡単な内容理解問題を解く。速さと問題の正解数を記録し、WPM(1分間に読める速さ)を計算する。

$$\text{WPM}(\quad) = \text{語数}(\quad) \div \text{読んだ速さ}(\quad) \text{秒} \times 60 \times \text{正解数}(\quad) \div \text{問題数}$$

図6 WPM計算式

*1分間に読む速さの計算だけだと、 $\text{WPM}(\quad) = \text{語数}(\quad) \div \text{読んだ速さ}(\quad) \text{秒} \times 60$ までだが、読んで内容理解ができているかを調べるために正解数() ÷ 問題数の部分を付け足した。

	プレテスト 10月6日	ポストテスト 2月24日	実力テスト 10月14日	実力テスト 3月1日
語数	214	220	1184	1208
読む速さ	151	129		
WPM	90	110		
平均問題数	3.96/7	5.04/7	50.1点	61.8点

図7 プレテストとポストテストの結果
[実力テスト10月と3月の結果]

読む速さは10月より2月のほうが遅くなった。理由として、字面だけを読んでいた生徒が減り、きちんと内容も理解しようとしながら読んだ結果である。一方、内容理解の正答数を含めたWPMでは数字が上がり、速読の効果が表れた。また3年生が毎月受ける長文問題が多い実力テストで3月には、平均点が10点以上も上がったことは速読と内容理解の両面が上がった結果と言える。受験前に大きな自信が持てたと多くの生徒の感想にもある。

5 | 多読から発展した活動

多読は「読むこと」の力を高めるために取り組んでいるが、多読後に「読む」「話す」「聞く」「書く」の4技能を活かしたアウトプットをする活動が考えられる。そして「読むこと」は一方通行的な受け身ではなく、人とコミュニケーションをとるものだということを認識させるために行う。

5.1 読み語り

月に2回ほど多読後に、今読み終わった本を用いて生徒同士が相手に「読み語り」を即興で行う。「読み聞かせ」と呼ばないのは、相手に自分(吾)の言葉(言)として語らせるためである。生徒には昔話を子どもに語るようにと意識させる。終われば、聞き手は話し手に質問し、感想を英語で伝えるようにして交代する。授業での音読や暗唱を即興で行う産出活動である。



図8 ペアで読み語りの様子

左の生徒は最初に日本語でタイトル「Go away, cat (猫さん、どっか行きなさい)」からどんな話を相手に想像させて、話を始めた。読み語り後、相手が予測したのと同じだったので二人で驚いていた。

5.2 その他の活動

●「絵の描写」……ペアで相手に絵の描写がしやすいページを見つけて開き、相手は30秒間何を言おうか考え、4文以上の英語で描写する。活動前に全体で既習の文法を2つ程度提示し、これを使って絵の描写をしようと負荷を与える。英検の二次試験の面接で絵の描写の問題があり、1年生から取り組んでいると、面接練習をした際に、その成果が感じられた。

●「絵を探せ!」……本のあるページの絵を覚えて、その絵について相手に話す。聞いた相手は、本を手に取りどのページかを探し当てる活動だが、結構喜んで取り組む。

●「絵を描こう」……一人があるページを見て、絵の描写を英語で話す。

例) It's sunny today. There is a big monster on the ground. You can see some mountains behind the monster. Two boys are taking pictures……
相手は聞いた内容を絵で表す。

3分後に絵を見せあい、理解できていたかを確認し合う。

5.3 定期テストでの多読問題

定期テストで多読書を使い作成した。

【3】多読の本を読みます。それを聞いて、絵を順番にできるように並べかえなさい。＊2から始まりです。



【3】(ストーリー)多読の本を読みます。絵を話の通りに順番に番号で並べかえなさい。
Chip wanted to make biscuits on Sunday. Dad tried to help Chip. He said, "Dad, we have no sugar. We need to buy sugar. Take me to the supermarket." Dad said, "OK, let's go." They went to the supermarket. Chip got some chips. Then they went to the book shop. Chip got a comic book. After that, they went to the market. Chip got a soccer ball. Dad said, "Let's go home." They came home. Chip said, "Oh, no! I forgot sugar!"

図9 1年定期テスト11月 リスニング

【※】犬のフロッピー(Floppy)の様子について質問をします。絵本を読み、各質問にア～エの記号で答えなさい。



1 Look at picture 1. How does Floppy look?
ア He is eating lunch. イ He looks happy. ウ He looks at the tower. エ He looks sleepy.
2 Look at picture 2. How does Floppy look?
ア He is walking. イ He can't swim. ウ He looks angry. エ He looks at a cat.
3 Look at picture 6. What is Floppy doing?
ア He is drinking water. イ He is walking around the park. ウ He is running. エ He is sleeping.
4 どうしてフロッピーは6の絵の状態になったのでしょうか。
ア Dogs couldn't play of the park. イ He is a bad dog. ウ He ate a lot of food. エ He was hungry.
"couldn't (can't) の過去形"

図10 1年定期テスト1月 読解問題

6 結果と考察

6.1 多読アンケート結果

アンケートは3年生5クラス(在籍146名、回答116名)の中から、多読活動においていちばん効果の高かった1クラス(在籍28名、回答23名)を抽出した。約半年間の終了語数の平均は一人48,652語となり、最高は146,785語でいちばん少ない生徒で教科書の1年分の3倍近くになる10,223語を半年で読んだ結果となった。読んだ本の冊数は最高188冊、最少は71冊であった。

6.2 研究目的の3つを生徒の感想から分析する

6.2.1 ①『多読により、英語で「読むこと」への楽しさを感じるようになるのか。』

多読の楽しさに関しては、ほぼ全員が前向きな回答であった。3年生から指導した生徒たち

で、1学期の最初には「読むこと」を苦手と感じる生徒が多く、教科書での活動を通して読み方を学び、「読むこと」の楽しさを感じてもらえたようである。



図11 本を取りに来る際の生徒の声

「話の最後に何かおちがいつもあり、それを見つけるとできた気分になれた」「あちこち冒険ができて、ハラハラしながら読んだ」「ステージ1にあったChip, had a go!を真似して、Ayane, had a go!と友だちとよく使っていた」生徒は本からちがう家族や文化を通して、物語に入っていったようである。

最後に紹介する生徒は「多読はイギリスの家族と一緒にホームステイをしている感じだった」。始業のベルが鳴る前に全員が本を取りに来て、ベルが鳴ったときには静かな読書の世界に生徒たちは旅立っていた。

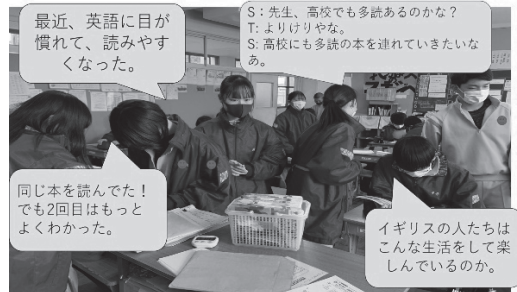


図12 昼休みに本を取りに来る様子

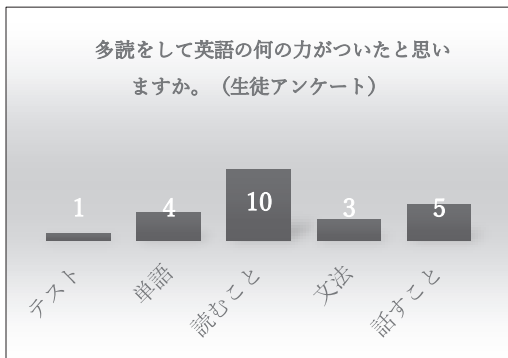


図13 英語の力で伸びたこと

もちろん「読むこと」の力がついたと感じる生徒が多いが、次に来るのが「話すこと」である。この3年生には多読開始後に2回しかしたことがないが、好きな本を選んでペアでリテリング活動や読み語りを行った。ほとんどの生徒が絵だけを見て、前に座る級友を幼稚園児に見立てる姿は、とても楽しそうであった。

6.2.2 ②『多読により、英語運用力の向上、特に速読への効果があるのか。』

結果は言わなくともわかるが、23人中13人が「とても思う」、10人が「思う」と、「思わない」と回答した生徒は一人もいなかった。

英語が苦手で、本を読むことが好きな男子(図14前列右端)は英語多読も好きになり、「なぜ英語が苦手でも多読は読めるのか」と聞いたところ、「日本語の本でも難しい時はある。でも我慢して読み続けるとだんだんわかってくる。多読も同じだ。本を読むことは、その言葉を学ぶ基本だ」。この言葉はこのクラスの名言になった。



図14 学習意欲が向上する様子

6.2.3 ③『多読により、生徒自らが英語学習へ向かおうとする意識は高まるのか。』



図15 自律的学習者へ近づく

多読の本を自分で選んで読むことは、生徒に責任が出てくる。そして椅子にじっと座り多読をする習慣がつくと、「読むこと」に集中できるようになる。多読本を読んだ冊数や累計語数が増えると自信がつき、より自己効力感が高まる。

多読をしている間は、読むことに集中してほしいので、単語を調べることはしないようにと言っていたが、どうしてもわからない単語はメモしてあとで調べ、気づいた学びは教師に語ってくれる。中学校最後の英文法「仮定法」を多読で発見した生徒は感動して、すぐに報告してくれ、さらに同ステージに仮定法が使われている他の本があるかを探していた。また妖怪が好きな生徒はトロールの話を読み興味を持ち、他にも北欧神話を読んでみたいと感想に述べていた。

6.3 多読を通しての他機関との連携

6.3.1 図書館との連携

本校は図書館司書の方のおかげで、図書館教育がとても充実している。多読授業のことを話すと、「それなら来年度図書館にもORTを買う予算を付けます」と言われ、本当にORTが図書館に貸し出して置かれるようになった。普段からなぜ本が良いのか、などをよく話し、多読の必要性やその効果も理解いただけたようである。ORTを図書館に常設していただき、授業で使う際にも貸し出しを許可していただいた。他校で多読をし

たいが、多読図書をどうすればよいかと悩みを聞く。まずは借りれるところから借りて多読を始めることである。協力していただいた司書の方は、「市の他の学校にも多読が広がってほしい」と願っておられる。



図16 図書館に設置されたORT

6.3.2 校外活動で活躍する多読図書

前述したように多読は読んで終わりではなく、人とのコミュニケーションにも使えるものである。リテリングや読み語りを多読後にした3年生の女子から、多読図書を借りたいとの申し出があった。3年時に行われる保育体験で絵本を園児に読み語りをしたい生徒が二人いたこともうれしい驚きであった。

また前任校では、小学生が中学校入学前にやって来る説明会の一部である授業体験で、同じく多読の読み語りなどをした生徒もいた。これから入学する児童が「中学校に入学して英語をしっかりと勉強すれば、あの先輩のようにできる」と良きロールモデルとなったようであり、校種間接続としても使える。

7 | まとめと課題

冒頭でも述べたが、本を読まない子が増えている。裏を返せば、本が読めないのである。いくら多読が良いと言っても、読み方を教えないと机上の空論で終わってしまう。「本を読むこと＝

方通行」ではなく、著者との対話や人とのコミュニケーションをとれる最適なものである。数年前まで学級担任をしていて、朝読書についてもマンネリ化しており、何とかしなければという思いもあった。

多読授業において、生徒がその場で知らない語やその文化背景などを調べたいなと思っても、十分な時間を捻出できていない。本当の学びという視点からは、生徒自身が学びたいと思うときに学ぶことをするのがいちばんだが、その時間の捻出ややり方については今後検討していく課題でもある。

多読を授業内で実施するには、授業改善をし、「読むこと」の指導をきちんとしなければならない。そして多読の時間を授業内で行うには、その時間を捻出することが不可欠である。その意味でも授業改善を行い、授業の流れを今一度見直した。この2つが、私が多読導入をする際にいちばん改善した点でもある。

本校では各学年で指導する英語教員が多読実施を意欲的に取り組んでいる。同僚とは多読を通してできる様々なコミュニケーション活動ができることも分かち合える。教科書で基礎基本を教え、その発展した活動として多読活動を行うことが望ましいこともわかった。学年での実施時期の調整や1年生の開始時期についても交流できる。

2022年冬に「関西多読指導者セミナー」で中学校の取り組みとして4年目の同僚の男性教員と私とコラボで紹介させてもらう機会もあり、『公立中学校でもできる多読実践』としてまとめ、発表できたことは貴重な機会であった。

またその発表を行う前に滋賀県105校にアンケートをお願いし、85校140名の先生方から回答を得た。それだけ多読への意識が高い証拠でもあり、セミナーにもたくさんの先生に参加していただいた。アンケートで140人中23人の教員が多読はしたことがあると回答されたが、残りの大多数の教師は多読を実施したことがないことがわかった。多読は効果があり、実施してみたいと考

える教師が大多数であったが、アンケートの中で「あなた自身が英語多読は好きだ」では、61人が「あまり好きでない」か「きらい」だと答えている。教師自身が多読を始め、好きになれば生徒に多読授業を実施していけるのではないかと感じた。

セミナー発表後に、主催者の方から参加者の感想が送られてきた。「多読図書はどうするのか」「授業と多読との並立の仕方」「多読実践と効果」についてよくわかったと温かい励ましの言葉をたくさんいただいた。その中で何人かの方が「多読は特別な取り組みではないことがわかりました。公立中学校でもこんなに工夫されて実践されていることに大きな力をもらえました」と記されていた。滋賀県全中学校にもこの発表のまとめをアンケートのお礼を兼ねて、このようなメッセージを最後に書いて送った。「多読をしていて目の前の生徒が、目を輝かせて、『こんな世界があるのか』『こんな体験私もしてみたいなあ』『こんな家族ならなあ』と夢を語る姿を見るのが何よりも幸せなときです。先生方も、ぜひ一緒に多読授業をしてみませんか」と結んだ。

【参考文献】

高瀬敦子 (2010). 『英語多読・多聴指導マニュアル』 pp.3-4, pp.9 大修館書店

古川昭夫・宮下いづみ (2007). 『イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ』 pp.2-16 小学館

田中菊雄 (1987). 『現代読書法』 pp.46-60 講談社学術文庫

高梨庸雄・卯城祐司編 (2000). 『英語リーディング事典』 pp.278-298 研究社出版